



平成 29 年 10 月 23 日(月)  
2017 年 No.6 10 月号  
横浜市立 新羽 中学校  
☎542-1680 FAX 541-1038

【HP】 <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/nippa/> 【メール】 [l2-nippa@edu.city.yokohama.jp](mailto:l2-nippa@edu.city.yokohama.jp)

## ● 校長の授業見学日誌 2017 part 6 ●

～ 情操を養う芸術分野の学び ～

### 【1年2組】美術科 三浦 雅彦 先生



外気温が 33 度に達しようとする蒸し暑い日でしたが、美術室の中は静粛に先生の説明に耳を傾ける生徒の皆さんが、落ち着いて学習に臨んでいました。本時は、「楽しんで伝える文字のデザイン」を主題に、レタリングの学習です。美術室の壁には、1 年生が色彩構成の学習で作成したグラデーションや暖色・寒色の作品、2 年生のポスター制作の作品などが掲示されています。先生は、黒板に「花」と「果」の文字を使って絵文字の見本を示しました。教科書や資料集の該当ページを参照しながら、実際に画用紙に描いていきます。本時を含めて 4 時間の授業で、完成を目指します。スケッチブックを開き、画用紙の裏表の区別を確かめます。15 cm×20 cm の長方形を二つ、画用紙に作ります。それぞれの枠に自分なりに選んだ文字をデザインしていくこととなります。私語がなく、整然と作業を進めています。想像力豊かで、自由な作品表現が楽しみです。

### 【3年3組】音楽科 熊谷 康子 先生

授業の流れがしっかりと定着している音楽室での学びを見学しました。始業のチャイムと同時にリコーダーでの合奏が始まりました。スメタナの手になる連作交響詩「モルダウ」です。よくなじんだ合奏になっていて息が合っています。次は、カンタータ「土の歌」の終曲「大地讃頌」をゼロ・サミングの指使いなどに注意をして、ソプラノ、アルト、テノール、バスのパートごとに練習し、先生のピアノ伴奏に合わせて全員で合奏しました。数分間のリコーダー練習後、号令がかかり、全員で先生に挨拶がありました。今後の学習計画の説明を受けて、中間テストの内容の解説に入りました。楽譜などの決まりに苦手意識が先立ってしまいやすいところを、丁寧にわかりやすくお話していただきました。先生の投げかけに自然な受け答えを行い、ゆったりと楽しく学んでいること、大変協調性のある学習態度で、気を散らすことなく今学んでいることに集中していることを素晴らしいと思いました。



● 《はまっ子読書の日》を前にして ●

豊かな読書活動は、豊かなところを育みます。横浜市教育委員会は、11月第1週の金曜日を「はまっ子読書の日」と定め、生徒をはじめ広く市民に対し、読書活動の啓発を行っています。

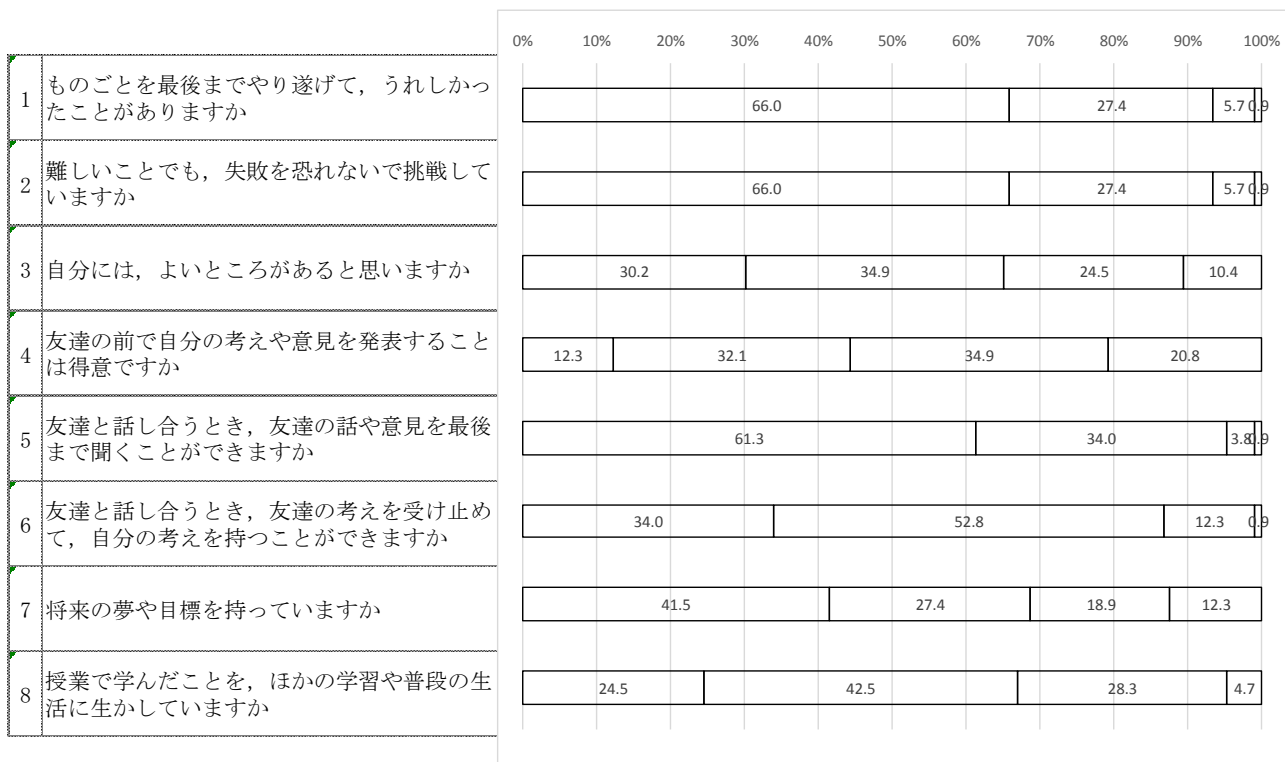
新羽中学校の学校図書館は、学校司書の先生をはじめ、図書館担当の先生方の努力下、室内のレイアウトや図書の配架状況等が年々充実度を増しています。新着図書コーナーや話題のテーマに係わる図書、作家ごとの分類が分かりやすい書架へのインデックス



の設置など、工夫がいっぱいです。室内の壁には、図書委員さんたちの手作りの「読書の木」が掲示され、皆さんの読書意欲を刺激します。広い窓から差し込む明るい日差しのおかげで、広い室内はいつも明るく温かい雰囲気です。マナーを守って、豊かな読書活動を。新羽中学校図書館は、一人でも多くの来館者を待ち望んでいます。

●平成29年度3年生 全国学力・学習状況調査：生活意識調査結果一部分への考察●

各グラフ軸：左から ①あてはまる ②ほぼあてはまる ③あまりあてはまらない ④あてはまらない 数値は%



※ 自尊感情の育成について

項目番号3、4、7、8についてプラス評価①が、それぞれ50%を下っていることは、本校生徒の実情を把握するうえで注目しなくてはならない。自尊感情、自己有用感に関する育成に課題が考えられるからである。

一方、項目番号1、2、5のプラス評価①が、50%をこえていることは、達成感、成就感を生活経験にもち、対人関係に寛容力、受容力をもつことを意味している。

これらの長短両面を融合させ、アイデンティティの確立につなげる工夫が求められる。やればできた→自分には力がある→前向きに生きる といったエネルギーに満ちたメンタリティの育成を期したい。

## ● 平成29年度 全国学力・学習状況調査(新羽中学校3年生結果) ●

平成29年4月18日に横浜市立新羽中学校3年生(106名)を対象に実施された全国学力・学習状況調査の概要をお知らせします。

### ■教科別学習状況調査結果

●国語A(主として知識)B(主として活用)共に、平均正答率において県と全国を上回っている。Aにおいては、「書く能力」がもっとも優れ、88.7%の正答率を示す。特に、目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめる問題番号5等に係わる観点に長じていた。(93.4%)

●Bにおいては、「話す・聞く能力」に優れ、75.8%の正答率であった。目的に応じて資料を効果的に活用して話す問題番号2等のスピーチに係わる観点により結果を見た。(90.6%)

●数学A(主として知識)B(主として活用)共に、平均正答率において県と全国を上回っている。Aにおいては、「数と式」に長じ、72.7%の正答率を示した。特に、実生活の場面においてある数量が正の数と負の数で表されることの理解に係わる問題番号1(4)等に優れた結果を示した。(93.4%)

●Bにおいては、「関数」に成果を示し、52.8%の正答率を見た。与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができることに係わる問題番号3(1)等に秀でていた。(90.6%)

平均正答率(%)				
	国語A	国語B	数学A	数学B
<b>新羽中</b>	<b>80.0</b>	<b>74.0</b>	<b>68.0</b>	<b>51.0</b>
神奈川県	77.0	72.0	64.0	48.0
全国	77.4	72.2	64.6	48.1

国語A(主として知識)	
【成果】漢字の読字において全般的に96%を超え、文脈に即した正しい読字に学力の定着がある。また、語句・語彙の知識理解と適切な使い分けに長じている。スピーチにおける資料の効果的な活用が優れていた。	【課題】漢字の書字において「規模」「延期」の無答が20%を超えていたことを踏まえ、文脈に即して漢字を正しく書く力の定着を課題の一つと考える。
国語B(主として活用)	
【成果】スピーチにおける資料の効果的な活用については、A同様に優れる。「読む能力」において必要な情報の読み取りに長じている。(問題番号3二)	【課題】表現の仕方について捉え、自分の考えを書く力に弱みがある。比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書くという記述式の回答箇所正答率は38.7%であった。
数学A(主として知識)	
【成果】数量や図形などについての知識・理解において正の数と負の数で表される数量への理解が実生活場面でよく理解されている。また、円錐が回転体としてどのように構成されているかをよく理解している。いずれも90%を超えた正答率。平行移動した図形を書くことができる力も発揮されていた。	【課題】関数の意味の理解に弱みがある。長方形の縦の長ささと面積の関係を表現する問いが約20%の正答率であった。また、与えられた反比例の表において比例定数の意味をあまり理解できていない。
数学B(主として活用)	
【成果】数量や図形などについての知識・理解において、与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取る力に優れる。90.6%の正答率。	【課題】数学的な見方や考え方において、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力に弱みがある。18.9%の正答率。また、資料の傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問いに正答率が低い。18.9%。

3年生の学習状況は、日ごろの授業の安定性から、自ずと推測が可能な良好さを示していると考えられます。しかし、生活意識の面で「主体性」や「積極性」が育成課題として考えられる面を持ちます。秩序だった落ち着いた学校生活を率先垂範に送る集団性は、学校の顔として最上級生の模範と言えます。それに加えて、若者としてのエネルギーに充実性を求めていきたいところです。

学力をどのようにとらえていくかは、今後の人生にとって大切な問題です。文部科学省が示す「生きる力」を、より現実生活に即した理念として具体化するところにそれは現れると思います。「どれだけ多くの知識を習得したか」という価値観から「身に付けた知識をどのように活用できるのか」といった理念への転換が課題です。社会が学生たちに求める人材ヴィジョンは、コミュニケーション能力に長じることがトップであることは、何を物語るのでしょうか。人間関係形成能力とともに、初めて会った人たちと同じ目標実現のために、協働できる能力がキー・コンピテンシーと呼ばれる「汎用的な能力」です。「習得」→「活用」→「探究」というベクトルをたどり、育成されるべきものとして、今「学力」観は、大きく転換しています。今回のB問題が、その点の育成度を測定している部分になります。